

D

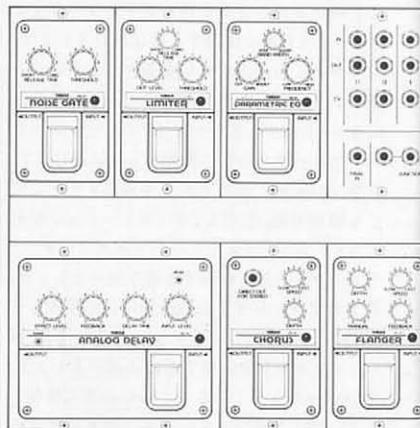
システムボードにマウントしてみましょう。

Cのエフェクターシステムの例をそのまま使用して、システムボードでの並べ方を考えてみましょう。Cのシステム例は13台のPSEユニットを使っていますが、ここではシングルサイズのユニットを11台まで装着できるシステムボードSB-200を利用します。SB-200上でユニットを並べる場合に優先するのは使いやすさ。次の4つのポイントに準じて決めます。

- ①ONしたままで使うものは上段にまとめる。
- ②ON/OFF回数の多いものを下段に配置。演奏中に操作するものは効き足側にまとめる。
- ③ON/OFF回数が多くても、演奏中に操作しないものは外部からパッチングしてもよい。
- ④パッチボード上の入れ替えを少なくするため、なるべくもとの接続順序を尊重する。

①にしたがって、ONにしたままで使用するリミッター、ノイズゲートおよびパラメトリックEQは上段にまとめます。さらに②にしたがってラインセレクター、ディストーション、フェイザー、フランジャー、コーラス、アナログディレイ、ミニペダルを下段にマウント。特に、

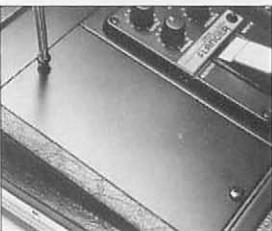
曲中に操作する可能性の高いミニペダルとラインセレクターは右側に持つてきます。コンプレッサー、オクターヴァー、トーンブースターについてでは原音を生かした使い方であるため、曲中の切り替えはなし。③にしたがって外部からパッチングします。パッチングはSB-200のパッチパネルを使わず、ラインセレクターのSENDとRETURNをそのまま利用しています。



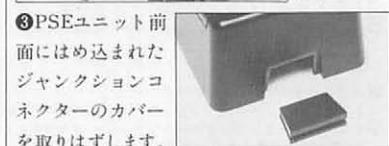
HOW TO SET

システムボードへのマウント手順

- ①システムボードにカバープレートがついている場合は、あらかじめ取りはずしてください。

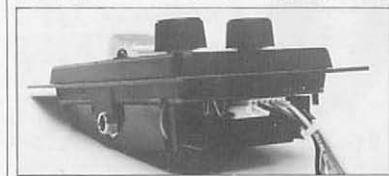


- ②PSEユニット上面にある4本のビスをゆるめ、リアカバーを取ります。電源に電池を用いたユニットの場合は、電池も取りはずします。



- ③PSEユニット前面にはめ込まれたジャンクションコネクターのカバーを取りはずします。

- ④PSEユニットの本体にセッティングプレートをはめ、システムボード側のジャンクションコネクターを、セッティングプレートの下側を通して、カバーをはずしておいたユニット側のジャンクションコネクターに接続します。



- ⑤4本のビスをしめ、リアカバーおよびセッティングプレートをPSEユニットに固定します。



- ⑥セッティングプレートごとPSEユニットをシステムボードに装着し、ビスで固定します。

PSEユニットのシステムボードへの取り付けは、あらかじめ取扱説明書をよくお読みになった後、取扱説明書に指定された手順に従って正しく行なってください。

E パッチパネルを使いシステムを完成させます。

システムボードへマウントした各ユニットを、今度はDで決めた接続順序に合わせてパッチングし直し、システムを完成させます。ここでは、エクステンションコードを用いて内部で入れ換える方法はとらず、パッチパネル上で、付属のパッチコードを使って処理します。まず、最初はラインセレクターですから、INST DIRECT OUTと2のINをつなぎます。ラインセレクターのCH-1 SENDは、外部においてコンプレッサー、オクターヴァー、トーンブースターを経て、CH-1 RETURNに返しています。また、CH-2 SENDは、ディストーションにつなぐため3のINと接続。ディストーションからコーラスまでは接続順とマウント順が一致しているためパッチングの必要がありません。コーラスの後はパラメトリックEQなので6のOUTを9のINへ飛ばします。さらにパラメトリックEQまでをラインセレクターで切り換えるわけですから、9のOUTをラインセレクター

のCH-2 RETURNにつなぎます。以下、リミッター→ノイズゲート→アナログディレイ→ミニペダルの順にならべるため、2 OUT→10 IN、11 OUT→7 IN、7 OUT→1 IN、1 OUT→FINAL INのパッチングを行なえばシステム完成です。

- ①INST DIRECT OUT→2 IN
- ②LS-01 CH-1 SEND⇒CO-01 INPUT
- ③CO-01 OUTPUT⇒OC-01 INPUT
- ④OC-01 OUTPUT⇒TB-01 INPUT
- ⑤TB-01 OUTPUT⇒LS-01 CH-1 RETURN
- ⑥LS-01 CH-2 SEND→3 IN
- ⑦6 OUT→9 IN
- ⑧9 OUT→LS-01 CH-2 RETURN
- ⑨2 OUT→10 IN
- ⑩11 OUT→7 IN
- ⑪7 OUT→1 IN
- ⑫1 OUT→FINAL IN
- はパッチパネル上でパッチコードを使った接続、⇒はSB-200の外でのパッチングです。

